

# 中学校 第1学年 音楽科 学習指導案

日 時 平成 29 年〇月〇日 (〇)  
第〇校時  
対 象 第1 学年〇組 〇名  
学校名 〇〇〇〇中学校  
授業者 〇〇〇〇

## 1 題材名 「リズム曲づくりにチャレンジしよう」

## 2 題材の目標

- (1) 言葉のリズムが生み出す特徴に関心を持ち、自分が表現したいイメージをもって音楽を作る学習に主体的に取り組む。
- (2) 言葉のリズムが生み出す特徴を感じ取り、どのように音楽を作るかについて思いや意図をもつ。
- (3) 言葉のリズムが生み出す特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて4小節程度の簡単なリズム曲をつくる。

## 3 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
①言葉のリズムが生み出す特徴に関心を持ち、簡単なリズム曲を作る学習に主体的に取り組もうとしている。	①言葉のもつリズムの面白さを感じ取り、どのように音楽を作るかについて思いや意図をもっている。	①言葉のリズムが生み出す特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて4小節程度の簡単なリズム曲を作っている。

## 4 指導観

### (1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領第3章第5節音楽〔第1学年〕A表現(3)ア「言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること」を受け、言葉とリズムの関係を理解し、感じ取った言葉のリズムを手掛かりに休符の場所などを工夫して、簡単な曲を作ることをねらいとする。

〔共通事項〕は、(1)アの「リズム」を重点的に学習する。音符やリズムを十分に理解できていない生徒も無理なく活動ができるよう、リズムに言葉を当てはめて、自然と理解できるようにしている。

### (2) 教材観

○ 参考教材

(ア) 「楽しいリズム曲をつくろう」

身近な言葉をリコーダーのタンギングと置き換えることで、リズムをよりわかりやすく捉え

ることができるように説明されている。


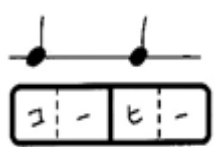
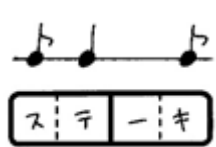
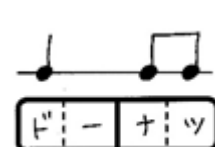
例：「やきそば」⇒「トゥトゥトゥウ」、「ステーキ」⇒「トゥトゥートゥ」

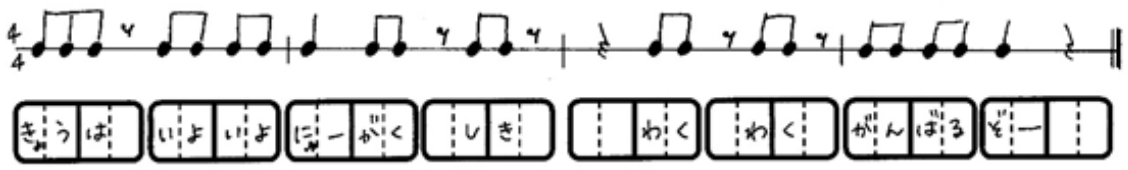
## 5 年間指導計画における位置付け

中学校における創作活動は、今回が初めてである。言葉とリズムとの関係を知り、記譜することができるようになることで、今後の学習につながると考える。今回作成した楽曲を2学期には旋律へと発展させる。

第1学年 1学期	第1学年 2学期	第1学年 3学期
リズム曲作りにチャレンジしよう。 (本題材・3時間)	日本語の抑揚を生かした旋律を作ろう。 (2時間)	ラップ作りに挑戦！ (3時間)
言葉とリズムの関係を理解し、言葉のリズムの面白さを感じ取って、表現を工夫して4小節程度の簡単なリズム曲を作る。	日本語の抑揚を生かして、音高やリズムを工夫し、4小節程度の短い旋律を作る。	反復、変化、対照などの構成を工夫して、3声部のリズム曲を作る。

## 6 題材の指導計画と評価計画 (全3時間扱い)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	■評価規準 (評価方法)
第1時	<p>◆言葉とリズムが生み出す特徴に関心を持ち、簡単なリズム曲を作る学習に主体的に取り組む。</p> <p>○身近な言葉とリズムとの関係を知る。</p> <p>・身近な言葉をメトロノームに合わせて言う。 (やきそば、コーヒー、ステーキ、ドーナツ、おそば、コロッケ)</p>     <p>・上記のリズムを楽譜で表すとどうなるか知る。 ・言葉で読む。(楽譜と言葉を掲示する) ・楽譜を見ながら、言葉を読む。(楽譜のみを掲示) ・言葉を「トゥ」にして読む。(「コーヒー」＝「トゥートゥー」)</p>	<p>■言葉のリズムが生み出す特徴に関心を持ち、簡単なリズム曲を作る学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>ア① (活動観察、ワークシート)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つのリズムに複数の言葉を自由に挙げる。 例：「やきそば」⇒「おんがく」「こくばん」「おいしい」</li> <li>・「やきそば」、「コーヒー」、「ステーキ」、「ドーナツ」、「おそば」「コロッケ」の六つのリズムそれぞれに、三つずつの言葉を考える。</li> </ul> <p>○身近な言葉を使って、短いリズム曲をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4分の4拍子、2小節のリズム曲を作る。</li> <li>・2小節の簡単なリズム曲を作る。</li> <li>・数人の作品を聴く。</li> </ul>	
第2時 (本時)	<p>◆言葉のリズムの面白さを感じ取り、どのように音楽を作るかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な言葉をリズムにする。</li> <li>・言葉で読む。(楽譜と言葉を掲示する)</li> <li>・楽譜を見ながら、「トゥ」でリズムを読む。</li> </ul> <p>○リズムを工夫して、4分の4拍子、4小節のリズム曲をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ(「春」)から連想できる言葉をたくさん挙げる。</li> <li>・声を出して試しながらリズムを考え、ワークシートに記入する。</li> </ul>  <p>・仲間の作品を聴く。</p> <p>・リズムを工夫して、曲を仕上げる。</p> <p>・工夫した点をワークシートに記入する。</p>	<p>■言葉のもつリズムの面白さを感じ取り、どのように音楽を作るかについて思いや意図をもっている。</p> <p>イ①(発言、ワークシート)</p>
第3時	<p>◆言葉とリズムが生み出す特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて4小節程度の簡単なリズム曲を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な言葉をリズムにする。</li> <li>・言葉で読む。(楽譜と言葉を掲示する)</li> <li>・楽譜を見ながら、「トゥ」でリズムを読む。</li> </ul> <p>○自分のつくった作品を発表し、互いに聴きあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活班で一人ずつ発表し、班のメンバーの良いところをワークシートに記入する。</li> <li>・各班の代表者が、全体の前で発表する。</li> </ul>	<p>■言葉とリズムが生み出す特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて4小節程度の簡単なリズム曲を作ることができる。</p> <p>ウ①(発表、ワークシート)</p>

## 7 指導に当たって

### (1) 学ぶ意欲を高める授業づくりの視点から

#### ア 音素材の工夫

創作の学習では、即興的に音を出しながら作っていくことが重要である。リコーダーや箏、鍵盤ハーモニカ等、使用する楽器は様々に考えられるが、運指が分からなくてつまずいてしまう生徒もいる。そこで、誰でも抵抗なく音を出すことができる、「声」を音素材として用いることにした。できるだけ楽しんで創作の学習に取り組み、自分にも曲が作れたという喜びを味わってほしい。また、それが今後の創作の学習への意欲へとつながると考える。

#### イ ワークシートの工夫

楽譜になじみのない生徒も、段階を踏んで無理なく読譜できるようにウォーミングアップとなる課題を多く用意した。また、早くできた生徒はいくつでも曲を作ることができるので、全員が飽きることなく学習できると考える。

### (2) 学ぶ意欲を高める評価の視点から

#### ア 授業内の評価

生徒は自分の考えが合っているのか、間違っているのかをととても気にしている。そこで、机間指導を多くし、全員の生徒に声を掛ける時間を設けた。良いところは褒め、直すべき部分を一緒に考えることで意欲も高まると考える。

#### イ 評価へとつながる評価

中学校では評価・評定への関心が高く、生徒や保護者が納得するような評価が求められる。そこで、評価についてワークシートに具体的に示すこととした。そのことによって、生徒が自ら目標設定をし、主体的に学習に取り組むことができると考える。

### (3) 主体的・協働的な学習の視点から

#### ア ヒントの提示

生徒が自らリズムを工夫して創作することができるように、「擬音語を使う」や「休符の場所に着目すること」をヒントとして示すこととした。

#### イ よい作品の紹介

生徒が友人の作品に触れることで、発想を広げて自分の作品を工夫することができるようにする。

## 8 本時（全3時間中の第2時間目）

### (1) 本時の目標

言葉のリズムの面白さを感じ取り、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

### (2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	■評価規準 (評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの復習をする</li> <li>リズムカードを読む               <ul style="list-style-type: none"> <li>①言葉を読む</li> <li>②「トゥ」で読む</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メトロノームを鳴らしながら読むことで、拍にのる感じを体感できるようにする。</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リズムを工夫して、4小節のリズム曲をつくる。</li> <li>・テーマ（「春」）から連想できる言葉をたくさん挙げる。</li> <li>・教師の例を聴く。</li> <li>・声を出して試しながら言葉とリズムを考え、ワークシートに記入する。</li> <li>・仲間の作品を聴く。</li> <li>・仲間の作品を参考にリズムを工夫して、曲を仕上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10名程度の生徒に発表させ、思いつかなかった生徒への手掛かりとする。</li> <li>・「わくわく」などの擬音語や擬態語もよいことを伝える。</li> <li>・楽譜を掲示する。</li> <li>・メトロノームに合わせて歌う。</li> <li>・メトロノームを鳴らしておく。</li> <li>・随時、メトロノームに合わせて歌詞を歌いながら作るように、伝える。</li> <li>・自分の思っている通りのリズム表記ができているか、机間指導で歌いながら確認する。</li> <li>・リズムが工夫されている作品を三つ程度紹介する。</li> <li>・曲をつくれた生徒は、更にたくさんの作品を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■言葉のもつリズムの面白さを感じ取り、どのように音楽を作るかについて思いや意図をもっている。</li> <li>イ①（発言、ワークシート）</li> </ul>

まとめ	・工夫した点をワークシートに記入する。	・次回は、班で発表すること伝える。	
-----	---------------------	-------------------	--